

“ガーデンアイランド北海道”のさらなる展開に向けて



有山 忠男

(株)ライヴ環境計画代表取締役
NPO法人ガーデンアイランド
北海道事務局長



ガーデンアイランド北海道とは

「ガーデンアイランド北海道」（略称GIH）は、北海道の自然、緑、花をテーマに、“美しい庭園の島・北海道”の実現を目指す道民運動です。私たちは、2003年よりこの運動に取り組み、昨年の2008年には一つの節目となるイベントを開催しました。それが「ガーデンアイランド北海道2008」です。

2008年は、この運動を広く道民に周知するための一つのイベント年、本格的な活動のスタート年と位置づけ、それに向けて全道の自然公園や都市公園、庭園、景勝地（自然景観、農村景観）を会場とする花と緑のネットワークづくりを進めてきました。

2008年に登録された会場は124カ所にも及びます。そこを一つの足がかりとして、美しいガーデンづくりを進めるとともに、全体として、庭園の島北海道のすばらしさを国内外に発信し、環境先進地としての北海道をアピール、多くの観光客の誘致を目指そうとしています。

偶然にも2008年は北海道洞爺湖サミットの開催年と重なったこともあり、高橋はるみ知事が提唱した「北海道花いっぱいでお迎えプロジェクト」に協力し、北海道が花と緑の美しい島であることを強くアピールすることができました。

以下、2008年の活動を振り返りながら、GIH運動の今後の展開について述べてみたいと思います。

2008年事業のあらまし

GIH2008は、2008年4月26日から10月31日までの約半年間にわたるロングランイベントとして、上記の124カ所の登録会場にそれぞれ独自のイベント展開をお願いするとともに、GIH事務局としては以下の事業を展開しました。

(1)「札幌駅南口プロジェクト」、「花フェスタ2008 札幌」への参加

札幌駅南口において、大型フラワーフレームによる駅前の修景事業に協力しました。この事業は、昨年度に引き続きJR北海道が6月から8月までのおよそ3カ月間、花の駅事業として札幌駅南口を季節の花で飾ろうと企画したもので、GIHはその全体コーディネートを担当し、あわせてGIHのPRを行いました。花の入れ替えは期間中計4回、季節にあった北海道らしい花を選び、道行く人に季節感を感じてもらいました。



札幌駅に設置したフラワーフレーム。3週間ごとに北海道にゆかりのある花を飾り、季節の風物詩を演出

また、大通公園で6月に開催される「花フェスタ2008札幌」に協力しました。2008年は大通公園西8丁目広場に、白い花だけでつくる花壇である「ホワイト・フラワー・マントラ」（同8丁目広場にあるイサムノグチの彫刻「ブラック・スライド・マントラ」にあやかって命名）を設ける一方、GIHのPRコーナー、喫茶コーナーなどを設け、花によるくつろぎの場を創出しました。



「花フェスタさっぽろ」で大通公園西8丁目広場に設けたホワイト・フラワー・マントラ

(2) 千歳コア会場「マルシェ」の運営

千歳アウトレットモール・レラ駐車場の特設会場に、GIH2008のPR機能と花と緑のアンテナショップ機能をもつ千歳コア会場「マルシェ」を新たに設置し、運営しました。開催期間は6月13日から8月3日までの52日間で、そこにはGIHの情報ブースのほか花苗や生鮮野菜、各種園芸資材等の販売・PRコーナー、また軽食コーナーなどが設けられ、観光客などに対するGIHのPRと花苗の販売、飲食提供などが行われました。



千歳コア会場「マルシェ」の花苗販売コーナー

(3) ガーデンアイランドツアーの誘致

北海道がより魅力的なフラワーツーリズムの目的地になるように、北海道の花の魅力を各種メディアや旅行エージェントなどにアピールし、実際のツアー企画にも協力してきました。2008年はNHK出版の「趣味の園芸」誌とタイアップして「ガーデンアイランド北海道2008花巡りツアー」を実現、6月から9月まで計8回、延べ200人のツアー客を道外から誘致しました。

(4) 全国大会等の開催

造園・園芸関係者やガーデナーの技術向上と人的交流を促進するため、GIHではこれまでさまざまなフォーラムやシンポジウム、セミナー等を開催してきましたが、2008年はGIHのスタート年であることから、新たに大きな大会をいくつか企画・開催しました。



7月に行われた「ガーデンアイランド北海道ミーティング in しかおい」

具体的には、7月に鹿追町でGIHの全国大会ともいべき「ガーデンアイランド北海道ミーティング in しかおい」を開催、8月と9月には清里町と遠軽町でそれぞれ「ガーデンアイランド北海道2008 in きよさと」「花のくに日本運動推進大会 in オホーツク」を他団体との共催などで開催し、ガーデンアイランド運動の盛り上げを図りました。

(5) 情報発信

北海道の花と緑の情報やGIHの会場情報などを前記の『ガーデンブック'08』とGIHのホームページを活用して積極的に情報発信を行いました。

また、『花新聞ほっかいどう』『MyLoFE』『趣味の園芸』『BISE』などの道内外の専門メディアとも連携して、北海道の花文化やガーデニング普及のための情報発信を行うなど、多方面において広報活動を行いました。



ガーデンブック
(124箇所の登録会場を紹介)

(6) 北海道洞爺湖サミットに協力

洞爺湖サミット関連では、「北海道花いっぱいでお迎えプロジェクト推進会議」のメンバーとして、特に大型コンテナの制作・配布、花のガイドブックの作成などをお手伝いしました。



GIHも参加した「花いっぱいでお迎えプロジェクト」キックオフセレモニー

GIH2008で実施した事業

4月	22日(火) 北海道花いっぱいでお迎えプロジェクト キックオフセレモニー ・道庁赤レンガ館にて開催 26日(土) GIH2008スタート ・オープン記念イベントの開催 【札幌】 国営滝野すずらん丘陵公園 【旭川】 旭川エスタ 【帯広】 帯広駅北多目的広場 【釧路】 釧路MOOエッグ 【函館】 五稜郭公園 【恵庭】 道の駅(花ロード恵庭) ・公式ガイドブック、PR用リーフレット完成、送付 ・フラワーリー スタート(4月26日~10月31日)
5月	23日(金)~26日(月) 日本造園学会全国大会に協力 ・GIHブース設置によりPR
6月	5日(木)~6日(金) 公園緑地全国大会に協力 ・GIHブース設置によりPR 21日(土)~29日(木) 花フェスタ2008札幌に参加 ・大型花壇(ホワイトスライドマントラ)、ティーコーナー、GIHブースからなるガーデンアイランドコーナーを設置
7月	7日(月)~9日(水) 「北海道花いっぱいでお迎えプロジェクト」に協力 ・サミット会場等を花で飾る大型コンテナをデザイン・制作 ・「魅力的な花植えガイド」「北海道花マップ」を作成 12日(土)~13日(日) ガーデンアイランド北海道ミーティングinしかお開催 ・GIHの全国大会ともいうべきフォーラムを鹿追町で開催
6~8月	6月13日から8月3日 千歳コア会場「マルシェ」開催 ・PRコーナー、花苗、野菜などの販売、飲食コーナーの設置 ・地上絵とともに各種メディアで紹介される
6~9月	「ガーデンアイランド2008ツアー」の誘致 ・NHK出版「趣味の園芸」誌とタイアップして「ガーデンアイランド北海道2008ツアー」を実現、6月から9月まで8回、延200人のツアー客を道外から誘致
8月	1日(金)~3日(日) ガーデンアイランド北海道2008フォーラムinきよさと開催 ・清里町の地元実行委員会と共催でGIHフォーラムを開催 ・セミナー、ディスカッションなど(参加者は3日間で延べ500人)
9月	11日(木)~12日(金) 花のくに日本運動推進大会 開催 ・大会事務局として協力(参加者は2日間で、延べ300名)
10月	10月~12月 ガーデンアイランド北海道2008 絵画コンクールの開催

2008年の成果と課題

ガーデニング需要を喚起

以上のように、2008年にはさまざまなイベントや事業を行ってきました。これらの効果については、

今後の活動の中で明らかになるものと思いますが、サミットとガーデンアイランドが同時並行で実施できたことで、結果的に道民運動としてのGIHの取り組みに対する一般の認知度は確実に高まったように思います。

それとあいまって、2008年は十勝千年の森や苫小牧イコロの森など、すぐれたガーデンがオープンしたこともあり、それらも含め、北海道のガーデンがガーデニングやランドスケープなどの専門誌で盛んに全国で紹介されました。さらに秋には、フジテレビ系の連続テレビドラマ「風のガーデン」が話題を呼び、富良野はもちろんのこと、北海道のガーデンへの注目も高まりました。

園芸誌の売れ行きも好調のようでした。『花新聞ほっかいどう』(隔週・2万部発行)、『MyLoFE』(隔月・3万部発行)という北海道の園芸雑誌2誌の購読者数は2008年いずれも増加したとのことです。また、各ガーデンの入場者数も2008年は前年を上回ったところが多かったようです。

これらが必ずしもガーデンアイランド効果というわけではありませんが、私たちの活動がそうした機運をつくる一つのきっかけになったことは間違いのないと思います。昨今の厳しい経済環境の中ですが、前述のような状況を見る限り、ガーデニング需要は決して勢いが衰えていないと思います。それどころか、まだまだ需要開拓の余地が多いと、2008年のイベントを通じて感じました。

交流事業による人的ネットワークの形成

2008年には意図的に花と緑に関する全国大会を北海道に誘致する運動を行いました。当初から予定されていたものもありましたが、結果的には以下の全国大会が北海道で開催されました。

- ・日本造園学界全国大会
- ・公園緑地全国大会
- ・花のくに日本運動推進大会
- ・ハンギングバスケットマスター全国大会
- ・ガーデンアイランド全国大会

全国大会の開催は、花と緑の北海道をPRする絶好の機会になるとともに、道内関係者の意識啓発に大いに役立ったものと思います。また、それ以上に、さまざまな交流や出会いにより新たな人的ネットワークができたことは何よりの財産と考えています。

行政との連携強化の必要性

ガーデンアイランド北海道は、民間から始まった活動です。それも、大きなスポンサー企業があるわけでもありませんでしたので、活動資金や事業資金の捻出が大きな課題でした。

2008年においては、サミット関連の事業も含め北海道から一部助成金もいただき大きな力になりましたが、事業費のほとんどは個人や民間企業・団体からの協賛金や寄付金、会費などが主な財源でした。しかし、金額的には決して十分なものではなく、多くの人たちの献身的な協力で事業を進めてきたのが実情です。

それとあわせて、ガーデンアイランド運動を広く北海道の隅々まで認知させるためには、やはり私たちだけの力では限界がありました。そこはどのようにして行政の力に頼らなければならないところでした。

道民運動というからには、資金面、広報面を含めて、やはり行政との連携をもっと密にして、より大きな効果をねらうべきだったと思っています。その点で、2008年の活動はやや準備不足でした。行政との連携・協働のあり方は、GIHにとって今後の大きな課題といえそうです。

ガーデンアイランド運動の今後の展開

積極的な情報発信

今後もガーデンアイランド運動は継続していく予定ですが、その基本事業になるのは情報の収集と発信であると考えています。そのため、私たちの情報ツールである『ガーデンプック』とホームページについては、可能な限り内容の充実にも努めるつもりです。

ガーデンプックについては、毎年、GIH活動や登録会場を紹介し、GIH運動を広く市民に理解してもらおう基本ツールと考えています。そして、最もポピュラーな北海道の花と緑のガイドブックを目指します。“春一番にガーデンプックを購入し、この冊子を車に常備してドライブに行く”、そんな北海道型ライフスタイルが定着することを期待しています。

もう一つの重要なツールはホームページです。GIHでは、花と緑に関するさまざまな情報をホームページで発信していくことを事業の大きな柱に掲げています。現在すでに登録会場124カ所の詳細情報とともに、花と緑に関する情報を掲載していますが、正直まだまだ内容は貧弱です。

今後は、インターネットの特性を十分生かす意味でも、各会場からの新鮮な情報発信、特に会場の協力により日々変化する花の開花情報をリアルタイムに発信するページを設ける計画です。これらにより、花と緑、ガーデンに関する情報を充実させて、北海道における花と緑のポータルサイトを目指していきたいと考えています。

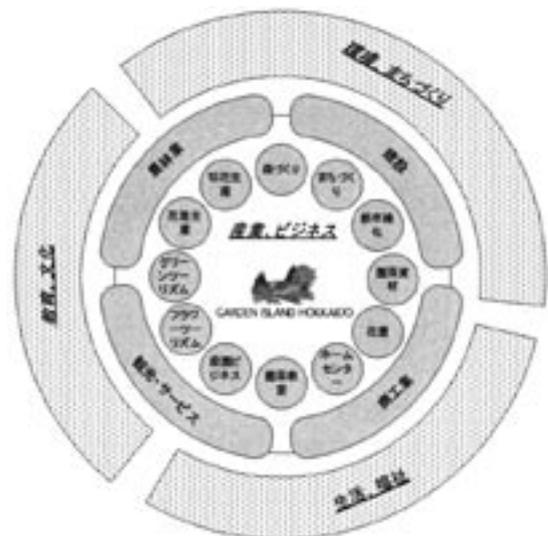
裾野の広い分野をつなぐ

私たちの最終目標は、一言でいえば「花と緑で北海道を元気にすること」です。それは精神的な意味での元気もありますし、経済的な意味での元気もあると思います。そのどちらも重要で、そのためにも花と緑に対する道民の関心をもっともっと高め、園芸・造園・景観などの分野でのさまざまなビジネスが発展し、また優れた人材が育っていく環境をつくる必要があります。

花と緑の分野は、非常に限られた産業領域に思われがちですが、実際その裾野はきわめて広く、多くの産業分野と深く関わりながら成り立っています。公園や庭づくり、公共空間緑化などはまさに建設業の分野であり、切花生産、花苗生産は農業分野です。また、その新品種開発には飲料メーカーなど他の産業分野の参入が目立っています。さらにガーデン資材やガーデングッズの市場には新たな企業の参入も盛んです。

一方、近年、北海道の花やガーデンを見るために多くの観光客が北海道を訪れており、北海道の観光

さまざまな分野をつなぐガーデンアイランド



振興に大きく貢献しています。また、市民のガーデニングは、北海道の生活文化やライフスタイルの創造、環境にやさしい町づくりそのものといえます。そして、教育、福祉とも密接に関連しています。

しかし、花と緑は、このように広がりのある領域ですが、相互の関連性は極めて弱いのが実情です。行政も業界も縦割りの世界で動いています。したがって、このような行政や業界を横断的につなぎ、相互の連携を築くことが求められているといえます。それがわれわれの役割であると認識しています。

北海道から理想のくにづくりを発信

日本人は、古来よりすぐれた庭園技術を持ち、それは江戸時代になって庶民も参加する園芸文化に発展しました。現在、そうした日本人の潜在的な能力をもう一度世界のために役立てるときが来たと言え、ガーデンアイランドの提唱者である川勝平太氏は指摘します。

私は、その大舞台が北海道であると考えます。北海道の風土はガーデンアイランドと呼ぶにふさわしい環境を持ち、その自然景観は外国人を引きつけるに十分な魅力を持っています。したがって、潜在的に持っている日本人としての感性をよみがえらせ、来るべき時代の新しい生活文化を北海道が提唱し自ら実践することが重要と考えます。

雄大な自然環境を背景に、花と緑による美しい生活空間を築き、そこに日本人の安らぎの場をつくり、癒しを求めて訪れる人々を気持ちよく受入れる。これはまさに北海道だからできることであり、そこに現在の北海道の閉塞感を打破する突破口があるように思います。

ただし、現場をみれば、優れた庭園が所有者不在、あるいは高齢化により管理ができず荒廃しているケースや、管理費の減少により快適性・機能が低下してきている公園が増えているなど、寂しい現実があり、これらの問題解決が求められています。GIHとしては、行政と民間との協働により、このような現場の課題に真正面から取り組んでいきたいと考えています。

2008のイベント事業は終わりましたが、これらの理想を実現するためにはむしろこれからが本番です。そのためにも、道民の理解のもとで地に足の着いた継続的な活動を続けていきたいと考えています。

profile

有山 忠男 ありやま ただお

1951年小樽市生まれ。'73年北海道大学農学部農学科卒業。'73～'82年(株)日本観光協会勤務。'82年北海道にUターン。'83年(株)ライヴ環境計画設立・入社、'94年代表取締役社長。2004年よりガーデンアイランド北海道2008を実現する会事務局長。国土交通省地域振興アドバイザー、わが村は美しく北海道運動コンクール審査委員、北海道環境審議会専門委員なども務める。

GIHに参加しませんか?
いっしょに「北海道を美しい庭園の島」にしましょう。

只今2009年度
登録会場募集集中

2008年の登録会場は全道で4会場

ガーデンアイランド北海道
海外-GIH

会場募集の詳細

- 登録会場の条件
 - 14歳以上に利用いただき、一般市民等に開放している施設。地域(有料施設は問いません)であれば、登録可能です。
 - 登録期間
 - 2009年4月～2010年3月(1年間)
 - 料金
 - 登録会場を納付した公式ガイドブック「ガーデンブック2008」に掲載されます。
 - シフトタイムな勤務形態が可能なこと
 - HISホームページ上でも紹介されます。
 - GIHの各種広報活動等において登録会場を優先的に案内します。
 - 会場登録料(3ヶ月間利用を目的)
 - ガーデンブック掲載サイズ(2頁) 25,000円
 - 14頁 15,000円
 - ガーデンブック2009企画
 - 編集発行
 - NPO法人 ガーデンアイランド北海道
 - 編集協力 花新報社 かいどう
 - 発行予定部数 2万冊
 - 定価(税込み)400円
 - 配布 2009年度版から北海道内各書店にて販売予定
 - ホームページ制作費
 - 掲載料 4万円(2009年8月)

お申し込みはガーデンアイランド北海道事務局まで、ホームページでも申し込みができます。

NPO法人 ガーデンアイランド北海道
〒960-0642 札幌市中央区大通西14丁目1-13 TEL 011-233-2008 FAX 011-204-7955
URL http://www.gih2008.com E-mail info@gih2008.com

2008年度版 ガーデンブック

ガーデンアイランドの登録会場募集の案内。多くの登録会場の参加・協力を得て、GIH運動が推進されます。